

●コマダラウスバカゲロウのシャーレでの飼育



コマダラウスバカゲロウ (*Dendroleon jesoensis*) はマダラカゲロウ属のカゲロウの仲間で、幼虫は樹皮や岩石の表面に生えた地衣類の一種であるレプラゴケを体表にまとって周囲に溶け込む擬態を行います。シャーレを容器に約8カ月にわたって飼育した所、造繭(蛹化)と羽化に成功しました。

●コマダラウスバカゲロウの造繭(蛹化)



コマダラウスバカゲロウの繭



上写真の個体は餌として与えたイモムシを捕食した後、レプラゴケの生えた木片の窪みで糸を吐いて繭を形成しました。繭は球状で白色の糸で覆われています。正確な時間は分かりませんが、一晚(数時間)程度で繭を形成したようです。

●コマダラウスバカゲロウの繭の中身を見てみると…



飼育していた数個体が造繭(蛹化)したのですが、中には羽化せずに死亡してしまっただけのものも見られました。これらの個体の繭を破って中身を見てみますと、蛹にカビが生えていたり、干からびてしまったりしていました。適切に蛹化や羽化を進める為には、シャーレ内の湿度の管理が重要です。

●コマダラウスバカゲロウの羽化①



夜になると繭の一部が破れ、コマダラウスバカゲロウの成虫の眼が現れました。その約30分後に繭から頭部が現れ、成虫の羽化が本格的に始まりました。幼虫とは明らかに異なる大きな複眼や長い触角が見られます。

●コマダラウスバカゲロウの羽化②



繭から頭部が出た後、続けて縮んだ状態の羽、細長い胴体部や脚部が現れました。羽化後の成虫は大顎を持った丸みのある体形の幼虫とは全く異なり、羽を持った細長い体形です。

●コマダラウスバカゲロウの羽化③



羽化後の成虫は羽を伸ばすために高い所へ登ろうとします。そこでシャーレの内部に化粧用の小筆を立てました所、先端部まで登りつめ、小一時間程かけて羽を伸ばしました。徐々に羽が広がっていく様子は実に美しいものでした。

●コマダラウスバカゲロウの成虫



羽が乾けば飛ぶことが可能となります。事務所の壁面に留まった成虫は幼虫とは全く異なる姿です。幼虫から蛹化、羽化を経て成虫となるプロセスを「完全変態」と言います。コマダラウスバカゲロウの成虫は幼虫の時に見られる大顎を失い、また眼部も大きな複眼に代わります。